
とある学園都市と白銀の少女

K 9 9 9 9

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある学園都市と白銀の少女

【Nコード】

N5507I

【作者名】

K9999

【あらすじ】

初めての小説投稿です。駄文だと思いますが、それでもよければ読んでみて下さい。
オリジナルキャラもです。

始まりは突然に？

私の名前は衛宮結衣と言います。高校１年生で、趣味は料理と鍛錬の普通の女子高生ですが、実は私魔術師でもあります。このお話は高校生活にも馴れてきた頃の事でした。

ここはどこだろう？

周りはビルや見慣れないお店が建ち並んでいた。私はこんな場所見覚えがないし、ここにきた記憶もない。

冬木市にはこんな場所無いはず何だけどなあ。今日は確かいつも通り学校に行つて、放課後は凜さんの家に行つたんだ。だけどそれから何が……あつたけ？

思い出せないなあ。まあ今は此処がどこなのかを把握しないと。それから私は街を歩き回つた。街には見たことのないジュースが売っている自販機があつたり、見覚えのないロボットがあつたり見たことのない物が多い。

「本当に此処はどこなんだろう？早く家に帰りたいだけどなあ。」
そんな事考えながらも歩いてると電光掲示板を見つけた。
電光掲示板には、学園都市第七学区と表示されていた。

始まりは突然に？

学園都市？聞いた事ないなあ。新聞やニュースでも聞いた事ないよ。どうしよう。

そもそもなんで私はこんな見たことのない所にいるんだろう。

……………そうだ！確か凜さんの家で……………

【今日の放課後】

やっと着いた、遅くなつたなあ。

「こんにちは凜さん、遅くなりました。」

この綺麗な女性は遠坂凜さん。父と母の友人で、私の魔術の師匠でもあります。一流の魔術師です。

「いらつしやい結衣。これから実験するから、地下室に急いで来てね。」

最近第二魔法の研究のために実験の手伝いをしていて、ここ最近放課後凜さんの家に毎日来ています。

「わかりました。」

【現在】

そうだ思い出した。確かその後、実験を始めたのはいいのだけれど、凜さんのうっかりで実験は失敗して虹色の光にのみこまれて……………。

気がついたら倒れていて。まさかここは平行世界！それとも異世界かも……………。

もしそうだとしたらこれからどうしよう。

その後自販機でジュースを買った。幸いにこの世界でも問題なくこっちのお金が使えた。それにしても、いちごおでんとかガラナ青汁とか凄く不味そうな味のジュースよく売ってるなあ。

公園のベンチに座りヤシの実サイダーを飲みながらこれからの事を考える。

手持ちのお金は最近出たバイト代も持っていたから5万円は持っている。

だけどもいつ帰れるかは分からないし、住む家もないし寝る場所もない。これからどうすればいいんだろう。

「ああどうしよう。」そんな事を考えながら悩んでいると、

「どうしたですか？」ピンクの髪の小さな女の子に話しかけられた。

小さな女の子

小さな子だなあ。話しかけてきた子は、だいたい130cmぐらいかな？ランドセルが似合いそうな女の子だ。

「見慣れない制服ですね。どこの生徒ですか？」

そういえば今の時間は夜10時過ぎ。こんな時間に女の子がベンチに独りで座っているのは変だね。

「聞いてますかー？」

「あゝごめんね。どうしたの？」

「どうしたの？じゃないです。どうしようって言っていたから、心配して話しかけたです。」

えっ！！さっき口に出ていたんだ。

「なんでもないから大丈夫です。」

「うーん。もしかしてあなた家出ですか？よかつたら家にきますか？」

えっ？

どうやら私は家出していたと勘違いされたみたいです。

そして私はなぜか、小さな女の子のアパートの前にいる。

アパートの外観は、………ボロボロで、家賃の安そうな所だ。

「遠慮しないで入っていいですよ。」

「はい、お邪魔します。」

部屋に入ってみると、室内は煙草の吸い殻がいつぱいの灰皿や、ビール空き缶がたくさん転がっていて、少し汚い。まるで典型的男の一人暮らしの部屋みたいだ。
この子の親御さんは留守かな？

「親御さんは留守なの？」

「親御さん？私は一人暮らしですよ。それでも私高校の教師をしてるですよ。」

えええっ！！！？

高校の教師！！嘘でしょ。どう見ても小学生にしか見えないのに。有り得………まあイリヤさんも見た目と年齢が全然違っていたし、あり得るかも。
そういえば

「あの、まだ名前を聞いてませんよね。」

「ああそつでしたね。」

「私の名前は衛宮結衣ていいいます。」

「結衣ちゃんですか。私の名前は月詠小萌ていうです。」

翌朝の出来事

朝5時45分に私は目が覚めた。

「え〜とここは。」見慣れない部屋だな。何でこんな所にいるんだろう？

まずは昨日あった事を整理しよう。

え〜と確か私は学校に行つて、放課後に凜さんの家に行つたんだ。それから魔術の実験の暴走に巻き込まれて、気付いたら見知らない場所にて、公園で小萌さんに会つたんだ。

その後小萌さんの家に着いて、小萌さんは私の事情などは特に聞かずに、

「夜遅いので今日はもう寝ちゃいましょう。」とか言つて寝たんだつた。

今に至る経緯を思い出せだし、あれ？

「そついえば小萌さんは？」

ふと布団見ると、小萌さんはウサギ柄のぶかぶかなパジャマ着て幸せそうに寝ている。

よしまずは、泊めてくれたお礼も兼ねて朝食を作ろうかな。

そして私は冷蔵庫を開けた。中にはビールの缶が沢山並んでいた。ざっと見て50本ぐらいある。

「え〜と他には」卵とベーコンにレタスとプチトマトときゅうりか。

目玉焼きと簡単なサラダとパンでいいか。
メニューも決めまし早速作りますか。

6時

「下拵え終わり。」

サラダは盛り付けも済ませて冷蔵庫の中にしまっだし、ドレッシングは食べる直前にかければいい。目玉焼きは小萌先生が起きたら作ればいいか。

小萌さんが起きるまで何してしよう。

「暇だな。」

いつもなら朝は母さんと道場で鍛錬しているからな。せめてランニングぐらいはしたいけど。でも持つてる服は、今着ている高校の制服だけだから、着替えないしなあ。

そうだ。この世界に来てから魔術を使ってないし、試してみよう。

ちなみに私が使える魔術は、固有結界（無限剣製）と投影魔術と風王結界と、簡単な基本的な魔術などが使える。

何故か知らないが私は父と同じ魔術が使えるんだ。凜さんも何故同じ魔術を使えるか解らないそうだ。

トレースオン

「投影開始」

自己呪文を呟く。

私が使おうとしているのは投影魔術。

イメージするのは双剣干将 莫耶。

創造理念を鑑定し

基本となる骨子を想定し

構成された材質を複製し

製作に及ぶ技術を模倣し

成長に至る経験に共感し

蓄積された年月を再現する

トレースオフ

「投影完了」

投影は問題無く出来た。この世界でも問題無く魔術が使えるみたいね。

「結衣ちゃん何をしたんですか！？何で急に剣が出てきたですか！
」！

えっ？もしかして私の魔術見られちゃった！！！！！！！！

朝からピンチー！どっしょよう（前書き）

すごく久々の投稿です。

朝からピンチ！！どうしよう

しまったあああ。

小萌さんが起きてるなんて気がつかなかった。

もしかして凜さんのうっかり癖移ったのかな？

今はそんな事よりも、小萌さんにどう説明しよう？

投影魔術使ってる所バツチ見られちゃったし、この状況で下手な言い訳しても信じてもらえないだろうし、納得しないよね。

私は人を殺してまで口封じなんてしたくもない。だからといって記憶を消すような器用な魔術は使えないしなあ。こんな事なら凜さんに習えばよかった。

「ハア」

いまさら後悔してもしようがない。

私はため息をつきながらも手に持っている投影した剣を消す。
その光景にまた驚きながらも小萌さんは、

「結衣ちゃんあなたいったい何者ですか？私が知っている超能力者でもこんな事できる人知らないです。」

「今私が使ったのは魔術です。実は私魔術師なんです。」

「魔術？」

それから私は小萌さんに、魔術の事や凜さんの魔術の実験の失敗が原因で他の世界に私がきてしまい、どうすればいいか悩んで途方に暮れていた事も話した。

「え〜と凄く突拍子もない話だと思いますが信じてもらえますか？」

こんな話そんなに簡単に信じてもらえないんだろうなあ。もし私が小萌さんだったらこの話絶対に信じないだろうな。

「はい。信じますよ」

「そうですよね。

こんな話簡単に信じてもらえるはずない……………」

あれ？！

「えっ！！なんで？」 どうしてこんな簡単に信じてくれるんですか？！

「それはですね、魔術を使った所を実際に見たですし、……………」

なにより会って間もないですけど、結衣ちゃんは嘘をつくような子ではないと私は思いました。だから信じますよ魔術の事も他の世界から来た事も全部信じます。もし結衣ちゃんがよければしばらくは家にいてもいいですよ。ただし家事は手伝ってもらいますけどね。」

知り合ったばかりの私を、信頼してくれるなんていい人なんだろう。父さんみたいな優しい人がこの世界にもいるんだな。

「小萌えさん、ありがとうございます。後不束者ですがよろしくお願ひします小萌さん。」

「よろしくです結衣ちゃん、それはそうと朝食食べましょう。」

こうして私は小萌さんと一緒に住む事になったんだ。トーストを食べながら前いた世界の事を話しながら楽しく食事をしていた。

でも私はまだこの世界の事全然を知らなかった。学園都市が普通の街では無いことを

主人公のプロフィール

名前 エミヤ 衛宮 ユイ 結衣
性別 女
身長 151cm
体重 秘密

趣味 料理と剣術の鍛錬

好きなもの 和食 苺 甘いお菓子

嫌いなもの 辛い料理 虫 いちごおでん

Fate/stay nightの衛宮士郎とセイバー（アルトリア）の子供です。

高校一年生で高校生活にも慣れてきた早々第二魔法（平行世界の観測や移動する魔法）の実験が原因で他の世界に飛ばされた不憫な主人公。

眼は碧色、髪の色は白みがかった銀色で髪型はポニーテール。タイトルの白銀の少女はユイの髪の色のことである。

小さな頃から母に鍛えられていて剣の腕前はサーヴァント相手でも打ち合えるほどである。

また弓矢の腕前も達人級である。他にも槍や拳銃などの武器の扱いにも精通している。

魔術に関しては幼少の頃から遠坂凜に習っている。父は魔術を教えるのに自信がなかったため凜に頼んだ。シロウ

結衣は投影魔術や強化や後簡単な防音結界や解析魔術などを扱える。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5507i/>

とある学園都市と白銀の少女

2011年2月24日19時23分発行